

小学生国内交流事業in庄内町



8月9日(火)から8月11日(木)までの3日間、庄内町の「大中島自然ふれあい館森森」を主会場として、今回で19回目を迎える南三陸町と庄内町の小学生国内交流事業が行われました。南三陸町からは42人、庄内町からは24人の小学5～6年生が参加し、両町の中高校生ボランティア8人

を含めて、総勢74人が夏休みの思い出にと楽しく交流を行いました。

はじめて会う友達の前で少し緊張気味の子どもたちでしたが、1日目の野外炊飯でのカレー作りやテント設営、2日目の羽黒古道登山やバーベキューと、さまざまな体験をしていくうちにお互いの距離がどんどん縮まり、3日目のカート体験を終えて南三陸町へ帰るときには、「せっかく友達になったのに…」と別れを惜しむ声も聞かれました。「来年は南三陸町に行くね!」「また会う日まで元気でね!」と再会を誓い合い、この夏の交流事業を終えました。



夢大使 リレー通信 57



各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、在仙歌津会会長を務める、株式会社宮津取締役会長の及川龍治さんです。

夢大使 及川龍治さん (宮城県仙台市)

お見舞い申し上げます

平成23年3月11日午後2時46分、東日本を襲った大地震は、多くの人に甚大な被害をもたらしました。津波で尊い命や大切な物を一瞬にして失くしてしまつた多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。私も自宅が全壊してしまい被災者の一人となりました。このような大惨事に見舞われた南三陸町のため、「夢大使」として私に何ができるのか、ラジオを聞きながら、ため息しか出ない日々を過ごしました。私は長年、全国建築物飲料水協会理事及び宮城県支部

長を兼任しています。この災害時に生命線となる水の管理に関することならお役に立てるのではないかと思います。さっそく南三陸町の水道事業所の方などにお話をいたしました。南三陸町は、井戸水を普段の生活の中に取り入れています。このたびの津波により、油や海水等が混入した井戸水は汚水となり、人体にとつてかなり危険なものだと思われま

す。しかし、残念ながら、担当の方々からは私の提案には耳を貸してもらえず、とても残念ですが、町として一日も早く、復旧をしなければならぬところが山積している中では、仕方が無いことであつたと理解しております。そのような中、私が経営する東鳴子温泉のホテルに、送迎昼食付で日帰り入浴のサービスを提供させていただきました。1日60名、延べ1,000名の方に利用していただきました。また、4月20日からは、被災者約50名の宿泊の受入れも開始いたしました。7月末で全員仮設住宅に入居予定となり、私の任務も一つ終わり多少安堵しております。これから町の復旧には、相応の時間を要することになると思います。まず最も考慮すべきことは、津波の被害が及ばない場所に役場等の公共施設や住宅を建設できる、土地の確保と地場産業を再生させることだと思ひます。最後になりましたが、皆様

復興に向かつて ①

今月から始まつたこのコーナーは、復興に向けた町の取組みを分かりやすく解説していく連載です。まず始めに、現行制度における住まいの高台移転の手法と大切なポイントとを、今月と来月の2回にわたって紹介します。

高台移転の事業手法

高台移転には、土地区画整理と防災集団移転促進の二通りの国庫補助事業があります。今回は、主に漁業集落で行われる「防災集団移転促進事業」のポイントを説明します。

防災集団移転促進事業とは

被災区域等、住民の居住に適当でない認められる区域内にある住居の集団的移転を行う事業であり、市町村が事業主体となります。この事業では、移転する土地の取得や造成、道路や水道の敷設につ

地域として気を付けることは

防災集団移転促進事業において、最も重要なのは地域の合意形成です。なぜならば、この事業の場合、その地域の被災世帯の半分以上の世帯が参加し、かつ、参加世帯が10軒以上であることが条件となつているからです。現在、町内でも、地域主体で話し合いを

いて、国の補助を用いて行うことができます。北海道南西沖地震の際の奥尻町や新潟県中越地震の際の川口町など、多くの被災地の復興で活用されています。

また「○○地区の▲▲に移転可能な土地がある。」といった情報をお寄せいただくことも大切な事項です。

もっと詳しく知りたいときは

町では、地域の要望に応じて、説明等に出向いています。話を聞いてみたいという地域がありましたら、震災復興推進課まで問い合わせください。

問い合わせ

震災復興推進課 46-13371



観光ネット最前線 25

3.11あの瞬間を忘れない ~被災地からの発信~

東日本大震災から、まもなく6カ月が経とうとしています。その間、町と観光協会では、ガイドサークル「汐風」の皆さんのご協力のもと、この震災を語り継ぐ活動を行ってきました。

震災の爪痕は深く、置かれている環境も様々です。全国の皆さんから心温まる支援を受け、復旧・復興に向けて歩き始めた私たちが今世界に向けて発信すべきことは、南三陸町が南三陸町らしく復興する姿だと思います。

ガイドサークル「汐風」では、この震災を語り継ぐ活動を私達と一緒に取り組んでくださる町民の方やお話を聞かせただけの方の輪を広げていく予定です。復興に向けた取組みの一環として、一緒に活動してみませんか?



福興市での語り部講座

問い合わせ 産業振興課商工観光振興係 ☎46-1378 一般社団法人南三陸町観光協会 ☎47-2550